

# 令和6年度宮崎県外部評価資料

## 外部評価対象プロジェクト名

### プロジェクト1

中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保  
育成（対象期間：R3～R7）

### プロジェクト2

施設園芸版スマート農業による高収益園芸産地  
の育成（対象期間：R3～R7）

令和6年11月8日

中部農業改良普及センター

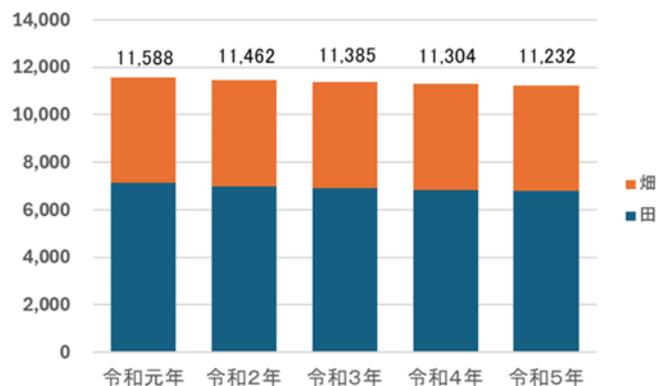
# 目次

I	地域農業の概要	.....	P1
II	普及センター組織図	.....	P3
III	プロジェクト一覧	.....	P4
IV	プロジェクト設定の手順	.....	P5
V	プロジェクト1	.....	P6
	① 普及計画の概要		
	② 主な取組内容と成果		
	③ 今後の課題と対応方向		
VI	プロジェクト2	.....	P15
	① 普及計画の概要		
	② 主な取組内容と成果		
	③ 今後の課題と対応方向		

# I 地域農業の概要

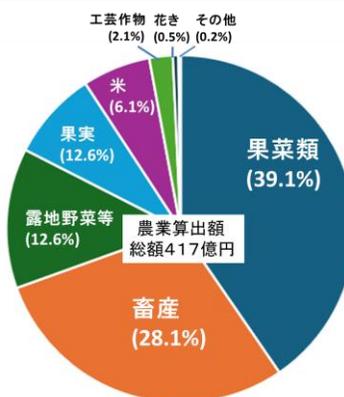
- 中部地域(宮崎市、国富町、綾町)は、冬期温暖な気候を生かした野菜、果樹、花きの施設園芸を基幹に、早期水稲等の水田営農と畜産を組み合わせた農業経営が中心である。
- 耕地面積は11,232haで、そのうち水田が6,777haで約6割を占め、令和元年と比較して3%減少している。
- 令和4年の農業算出額は417億円で、きゅうりなどの果菜類が39.1%、畜産が28.1%となっている。
- 基幹的従事者の減少が進んでおり、平成17年と比較して45%減少し、70歳以上が4割と生産力の低下が懸念される。

管内の耕地面積



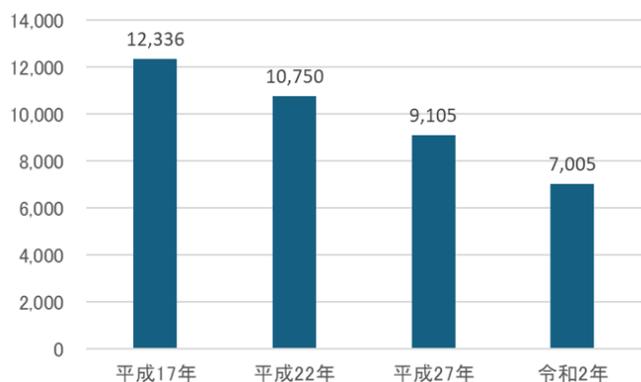
出典：農林水産統計・耕地面積及び作付面積統計

農業算出額の品目別割合(令和4年)



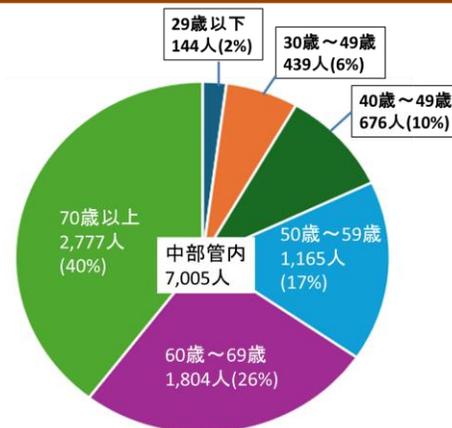
出典：令和4年市町村別農業産出額(推計)

管内の基幹的農業従事者数の推移



出典：2005, 2010, 2015, 2020年農林業センサス

管内の年齢別基幹的農業従事者数(令和2年)

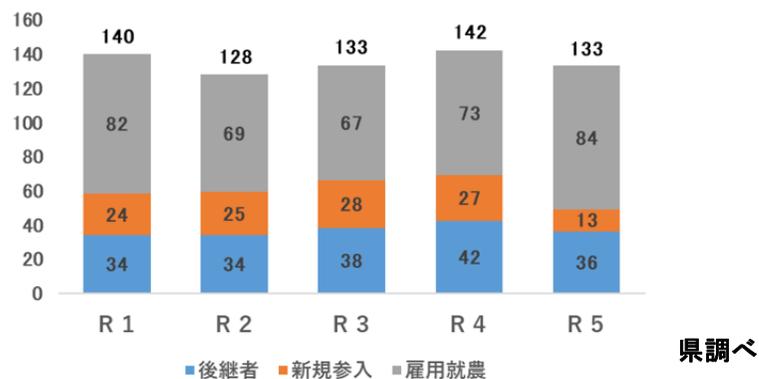


出典：2020年農林業センサス

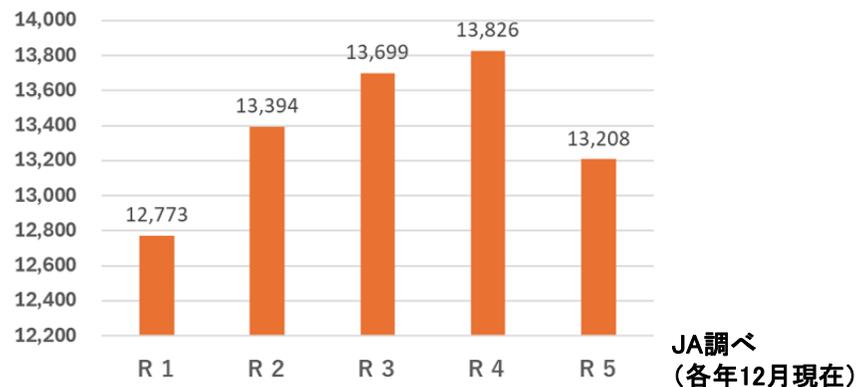
# I 地域農業の概要

- 管内の新規就農者は毎年度120人以上で推移していたが、昨年からは減少傾向にある。
- 畜産の算出額の6割を占める肉用牛については、飼養頭数は増加傾向にあったが、R5年は減少した。
- 算出額の多い果菜類のうち、きゅうり、ピーマン、トマトは県内のシェアは高く、そのうち県算出額全国1位のきゅうりの県内シェアは68%と主要な産地となっている。
- きゅうり、ピーマン、トマトの作付面積は、H30年と比較して、それぞれ12%、8%、11%減少している。

### 管内の就農形態別の新規就農者の推移



### 管内の繁殖雌牛飼養頭数の推移

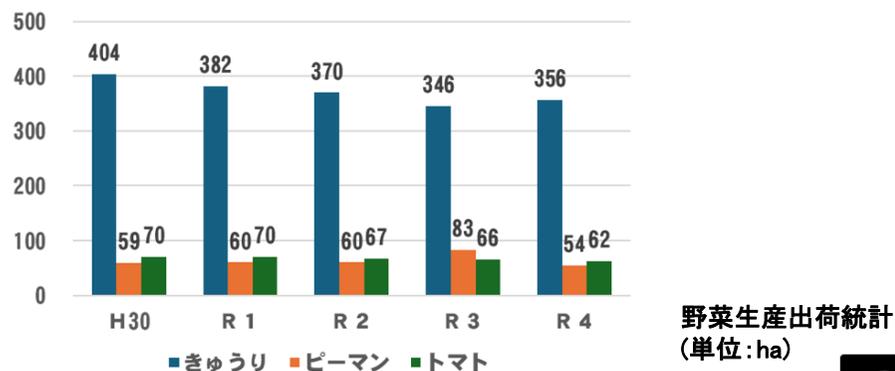


### 果菜類の主要品目における中部管内の生産量

品目	宮崎県		中部管内		中部管内のシェア B/A	県の 全国順位
	作付面積 (ha)	収穫量A (t)	作付面積 (ha)	収穫量B (t)		
きゅうり	584	64,500	356	43,883	68%	1位
ピーマン	304	28,100	54	6,190	22%	2位
トマト	205	17,000	62	5,950	35%	11位

令和4年産野菜生産出荷統計

### 管内の主要果菜類の作付面積の推移



## II 中部農業改良普及センター組織図(R6)

中部農林振興局長

単独庁舎

振興局次長  
兼 普及センター所長

○普及センター  
職員数 25名  
(総務1名含む)

○特徴  
・県内で最大規模  
・普及経験3年未満5名

○地域支援課 課長

・地域企画担当 3名  
・地域振興担当 5名

○農業経営課 課長

・土地利用営農担当 4名  
・農畜産経営担当 5名  
・園芸経営担当 5名

### Ⅲ プロジェクト一覧(R3～R7)

地域ビジョンの 重点施策	プロジェクト名	主な活動内容	主担当
中部農業の未来を 紡ぐ多様な担い手 の確保・育成	(総合1) 中部地域の農業を未来へつなぐ農業者 の確保育成	農業者の受け入れ体制整備、早期経営 安定のための支援	地域支援課・ 農業経営課
	(専門1) 経営発展を目指す農業者の課題解決 力の向上	経営計画の作成と計画実現に必要な課 題解決能力の習得支援	地域企画担 当
トップを走る生産 性が高く高収益な 中部農業の確立	(総合3) 施設園芸版スマート農業による高収益 園芸産地の育成	データに基づいた環境制御技術の確立 のための支援	園芸経営担 当
	(総合4) マーケットインに基づく新たな土地利用 型営農の展開	水田や畑地を有効活用した土地利用型 農業確立のための支援	土地利用営 農担当
	(専門2) 国内外の需要に対応した茶産地の育成	有機JASなど高付加価値茶生産による 輸出型産地の育成支援	農畜産経営 担当
	(専門3) 肉用牛繁殖経営の生産技術向上	平均分娩間隔の短縮、子牛死廃事故頭 数の低減のための支援	農畜産経営 担当
	(専門5) 次世代に向けた持続可能な日向夏産地 づくり	省力安定生産技術の導入、優良園地維 持のための支援	園芸経営担 当
	(専門6) 生産技術向上による花き産地の維持	主要な花き(コチョウラン、菊、ダリア)の 栽培技術の課題解決のための支援	園芸経営担 当
しなやかで災害に 強い安全・安心な 農業農村づくり	(総合2) 集落モデル育成による持続可能な水田 営農の展開	大規模経営体の育成、集落営農による 水田営農維持のための支援	地域支援課・ 農業経営課
	(専門4) ICM技術のフル活用による持続可能な 野菜産地の育成	住民自ら行うICM集落の育成、キュウリ MYSV撲滅を目指した周年防除体系の 確立のための支援	園芸経営担 当

# IV プロジェクト設定の手順

## 普及事業の計画・実績検討に係る組織

- ・中部地区農業改良普及事業推進協議会  
(各市町、農業委員会、JA、NOSAI、県)
- ・農業経営指導士  
(生産者代表)
- ・地区SAP役員  
(若手農業者代表)



普及事業推進協議会  
・6月:幹事会、7月:総会 普及活動の取り組み等を説明

7~10月  
・普及計画中間検討  
(進捗状況確認(四半期ごと)、問題点・課題の整理)

11月頃 先進地調査研究



10~12月  
・普及計画作成に向けた課題の見直し

12~3月  
・普及計画(案)作成(農業普及技術課との協議・専技との調整)

3月 中部地区農業改良普及事業懇話会  
(普及事業推進協議会・農業経営指導士、SAP)  
・普及活動実績・計画の説明  
・普及活動事例の説明

# V プロジェクト1

中部地域の農業を未来につなぐ農業者の  
確保育成

(対象期間: R3~R7)

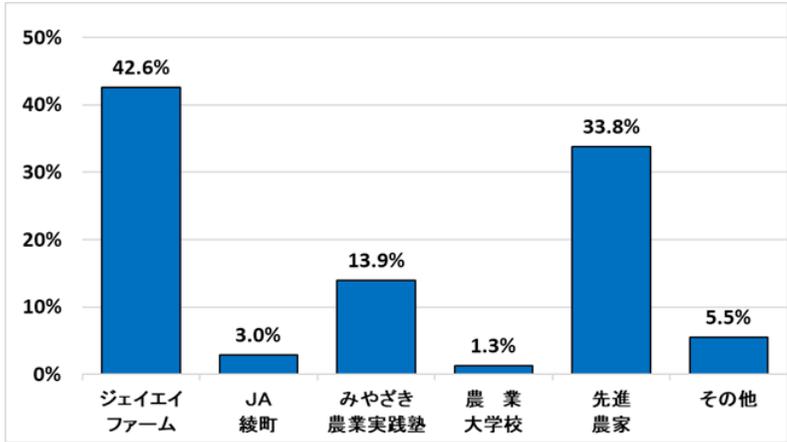
# V-① 普及計画の概要

- 中部地域では、施設野菜での研修体制は整備されており、施設野菜での就農が就農全体の8割以上を占めている。
- 一方で、畜産、果樹、花き、有機農業部門の新規就農希望者はいるものの、研修体制が整備されておらず、新規就農者も少ない状況となっている。
- 新規就農者の就農後の早期経営は、不安定になりやすいため、就農前後の学修体系や安定経営が図れるまでの支援体制を整備する。
- 高齢化等による産地の担い手不足が懸念される中、産地の事業承継が少なく、今後の産地維持に向けた経営資源の円滑な承継体制の仕組み作りに取り組む。
- **R7年は、新規就農者数350人(R3~7、70人/年間)、認定新規就農者から認定農業者への認定率50%(6年目以降)**

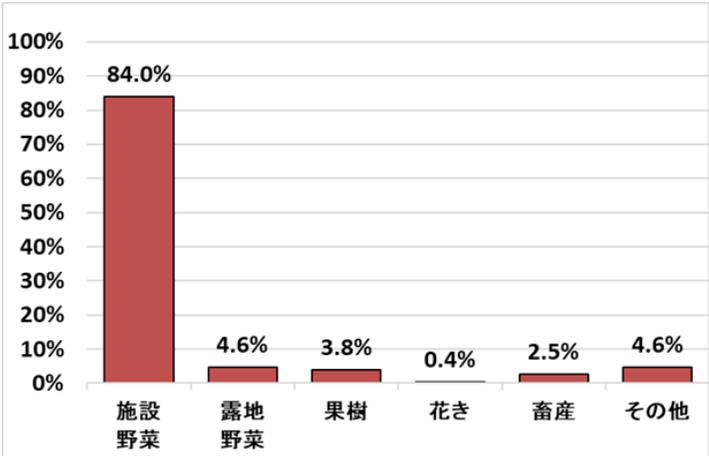
## 中部管内の市町別認定新規就農者数の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
宮崎市	12	27	12	21	21	21	24	20	20	17
国富町	1	1	3	1	1	0	2	3	7	5
綾町	0	4	2	3	0	2	2	2	3	0
合計	13	32	17	25	22	23	28	25	30	22

## H26~R5の認定新規就農者の研修先別の割合



## H26~R5の認定新規就農者の就農区分の割合





# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題 1 : 次世代を担う農業者の確保

### 1 重点対象集団

管内新規就農者

### 2 主な取組

～令和5年度

#### ■農業者の受入体制整備

花き、畜産、いちごで研修体制を整備

R4から綾町で有機農業の学校の開校に向けた支援を行い、R5に開校後は学校運営を支援

#### ■スムーズな就農に向けた就農地・中古施設等情報共有体制整備 関係機関と情報収集体制を構築し、R4:11件、R5:22件の中古ハウス情報を収集し、就農予定者とのマッチングを実施

#### ■就農計画作成支援

就農に必要な知識等について研修会を実施し、就農計画作成を支援

現在の状況(令和6年4月から現在まで)

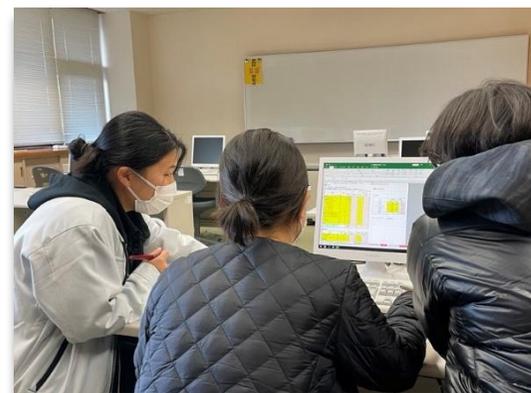
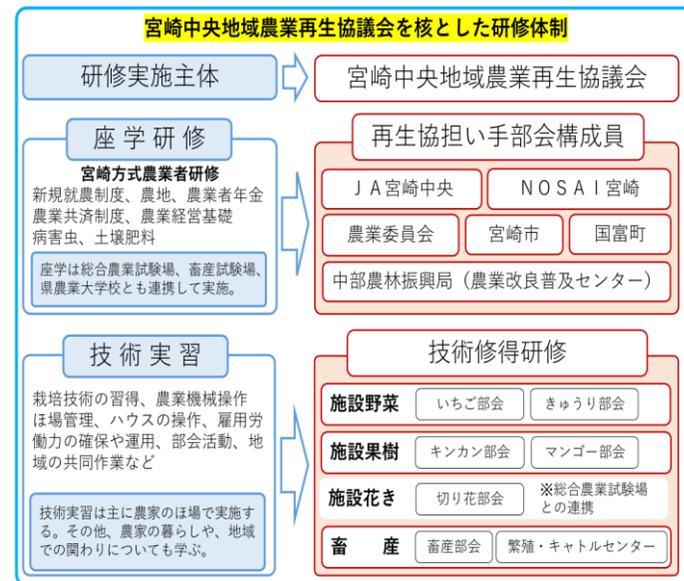
#### ■ハウスきんかん部会での研修体制整備に向け、関係機関と協議中 綾町の有機農業の学校運営については継続支援中

#### ■新規就農希望者に対する研修会、就農計画作成支援中

### 3 成果目標の達成状況

新規就農者確保体制等整備数

3(R2) → 7(R5実績)



就農計画作成支援

# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題 2 : 新規就農者の早期経営安定

### 1 重点対象集団

管内新規就農者

### 2 主な取組

#### ～令和5年度

#### ■経営管理能力の向上

経営研修及び畜産スタート研修の開催

#### ■認定農業者への移行支援：就農5年目の新規就農者

これまでの経営の振り返りを行い、現状を把握した上で農業経営改善計画の作成を集合研修にて支援

#### ■技術課題解決能力の向上

営農に必要な技術習得に向け、座学による研修を実施

特に、管内新規就農者の9割を占める施設きゅうりについては、3回の専門研修を実施

#### 現在の状況(令和6年4月から現在まで)

#### ■経営研修、技術習得に向けた研修開催

#### ■就農4, 5年目の新規就農者を対象に、個別面談により経営分析・課題整理等を支援

### 3 成果目標の達成状況

経営改善計画書自力作成者数

0人(R2) → 9人(R5実績)



座学研修



就農状況確認調査

# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題 3 : 青年農業者の経営改善意欲と課題解決能力向上

### 1 重点対象集団

管内青年農業者(SAP)(50名)

### 2 主な取組

～令和5年度

#### ■課題解決力の向上

定例会に出席し、研修や活動に対して助言し、経営管理研修等実施  
営農での課題設定・解決に向けた取組を支援

#### ■組織活動の充実(～R4まで)

経営理念等作成支援

リーダー育成に向けたファシリテーション・コーチング研修会開催

現在の状況(令和6年4月から現在まで)

#### ■営農上の課題解決に向け、先輩農業者との意見交換会実施

#### ■各自が設定した課題解決への取組状況確認、必要な支援の実施

### 3 成果目標の達成状況

自己課題解決取組者数

-(R2) → 24人(R5実績)



SAP研修の様子



意見交換会の様子

# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題 4 : 産地維持のための経営資源の円滑な承継

### 1 重点対象集団

JA宮崎中央地区本部ハウスきんかん部会(42戸)、マンゴー部会(96戸)、温州みかん部会(72戸)

### 2 主な取組

～令和5年度

#### ■ 果樹の承継体制整備

- ・3部会(ハウスきんかん、マンゴー、温州みかん)の台帳、Google mapを活用した園地マップの整備
- ・部会での承継に関する意識啓発活動
- ・ハウスきんかん部会の支援対象者リスト(70才以上)の作成



園地マップ

現在の状況(令和6年4月から現在まで)

#### ■ 園地の現状把握及びマップ内容の確認を実施

#### ■ きんかん収穫体験による承継マッチングの試行



講習会での園地承継の説明

### 3 成果目標の達成状況

果樹承継プラン数

0(R2) → 2(R5実績)

みんなで産地を守っていきましょう!

このまま何もしないと...

きんかんは未永く営農続けられるのが魅力のひとつですが、後継者対策は重要な課題です。生産量が減少すると、有利販売が難しくなり、生産意欲が減退し、ますます産地維持が厳しくなります。一人一人が園地継承に向け協力しましょう!

とても大事な第三者承継

産地維持の為に、我が家の後継者が重要ですが、なかなか厳しいのが現状です。後継者がいないから、営農を中止するのは、もったいない。適正に管理された樹は大切な財産になります。大切に育てたきんかんを継承させ、大事な産地を守りましょう!

とても大事な第三者承継

高齢になると、体調不良等で、突然営農を中止する事態も...。いつまで営農を続け、何年後ぐらいから継承を進めていくなど、計画的な経営継承計画を作成し、スムーズにバトンをつなげていきましょう。※第三者継承への協力の意志を示しましょう。

説明資料

## V-② 主な取組と現在の状況

普及課題 1 : 次世代を担う農業者の確保

普及課題 2 : 新規就農者の早期経営安定

普及課題 3 : 青年農業者の経営改善意欲と課題解決能力向上

普及課題 4 : 産地維持のための経営資源の円滑な承継

### プロジェクト全体の到達目標の達成状況

- 新規就農者数  
R2(基準) 58人 → R5(実績) 171人 (R7目標:350人:R3~R7累計)
- 認定農業者認定率  
R2(基準) 37% → R5(実績) 63% (R7目標:50%)

## V-③ 今後の課題と対応方向

### (今後の課題)

- (1) 新規就農者の早期経営安定
- (2) 有機農業を学ぶ学校の受入・運営体制整備
  - ・ 第1期生への農地配分、就農計画の作成
  - ・ 新しい堆肥製造に向けた仕組みづくり
- (3) 果樹承継についての意識付け後の支援

### (対応方向)

- (1) R6年度の実績を検証しつつ、さらに必要な取組を行う。
- (2) 綾オーガニックスクールの運営にかかる国予算の確保及び授業内容の高度化
- (3) 支援対象者の意向確認を継続しつつ、承継する新規就農者の確保と育成体制の整備

# V プロジェクト2

施設園芸版スマート農業による高収益園芸  
産地の育成

(対象期間: R3～R7)

# V-① 普及計画の概要

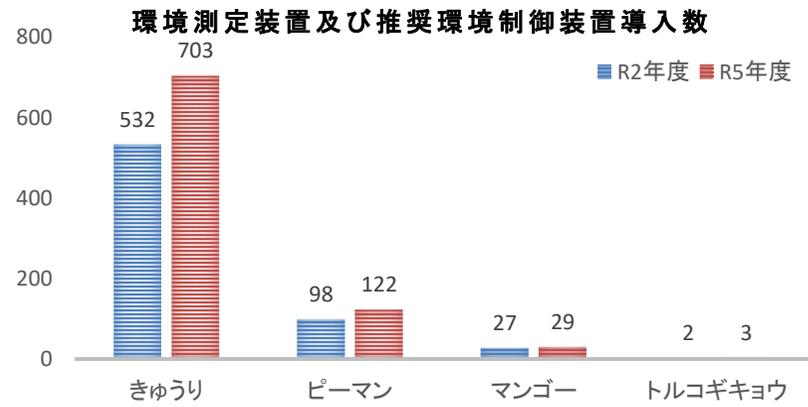
- 中部地区の農業産出額の約55%は園芸品目で構成されており、特に、施設果菜類を中心に環境制御技術の導入を推進し、高収量・高品質生産を目指した取組が進められているが、環境制御技術の取組は一部の品目や地域にとどまっている。
- 様々な栽培データ(ハウス内環境)や生育データの活用方法等、導入推進に向けた情報の整理がなされていない。
- データ分析に多大な労力が必要であるとともに、環境制御技術導入の経営実態が把握されていない。
  
- このため、  
 果菜類以外の施設園芸品目での利用拡大のため果樹や花きにおけるデータに基づいた環境制御技術の確立  
 先行している果菜類での環境制御技術のさらなる推進  
 果菜類での収量向上やコストを意識した運用を目指して、高度利用による高収益生産体制の確立に向けた支援
  
- R5までの目標 **環境測定装置及び推奨環境制御装置導入数 1,167台(R7年)**  
 R6からの目標 **生産量 施設きゅうり 30,000t 施設ピーマン 4,500t(R7年直近3カ年平均)**

## 施設果菜類の県内シェア

項目 品目	宮崎県		中部管内		県内 シェア	県の 全国順位
	作付面積 (ha)	収穫量 (t,千本)	作付面積 (ha)	収穫量 (t,千本)		
きゅうり	551	60,286	375	45,999	76%	1位
ピーマン	232	22,681	56	5,744	25%	2位
マンゴー	82	1,256	33	509	41%	2位
トルコギキョウ	211	481	109	322	67%	-

※野菜(花き)は「市町村集計による野菜・花き生産出荷実績並びに計画」における令和5(4)年産の値。果樹は、令和5年産果樹栽培状況等調査における値。全国順位は「令和4年産野菜(果樹)生産出荷統計」における順位。

## 品目別の環境制御装置等の導入数





# 参考 環境測定装置及び推奨環境制御装置の導入状況(R5年度)

項目 品目	生産者数	環境測定装置		推奨環境制御装置*				
		導入戸数	導入台数	炭酸ガス発生装置	細霧冷房	ヒートポンプ冷房除湿	導入戸数	導入台数
きゅうり	658	142	201	○	□		220	502
ピーマン	104	34	56	○	□		25	66
マンゴー	96	20	20	○		○	7	9
トルコギキョウ	6	1	1	○			2	2
その他	276	30	38				49	91
計	1,140	227	316				303	670

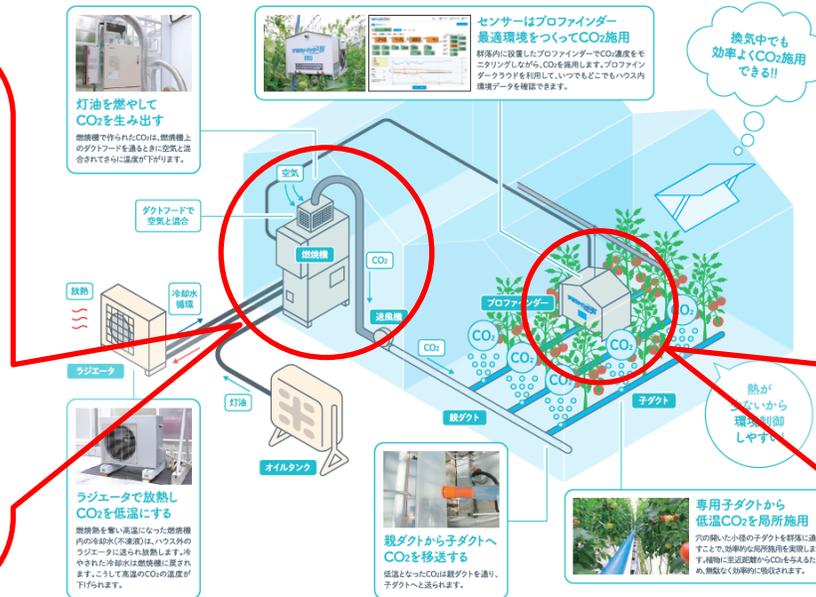
※ ○は、推奨している環境制御装置。 □は、推奨を検討中の制御装置(台数にはカウントしていない。)

## ○炭酸ガス発生装置

測定値と農業者が設定した値をもとに自動で炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)施用等を行う装置。



炭酸ガス発生装置



## ○環境測定装置

温湿度、日射量、炭酸ガス濃度等のハウス内環境データを自動測定し、スマートフォンやPC等で確認する機械。



スマートフォン上での画面

各図、写真：(株)誠和 環境制御装置カタログより

- R4年度に県内の約113戸の農場に環境測定装置を設置。  
R5年度には、データの取扱いに係る生産者との契約事務を行い、JAグループのサーバーにデータの蓄積を開始。

対象:きゅうり69戸(うち中部34戸)、ピーマン44戸(うち中部11戸)

- R6年度からは、データに基づく技術指導に着手するとともに、将来的には蓄積データをもとにした栽培マニュアルの作成や出荷量の予測等に活用。



Dプロの取組イメージ

# V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：データに基づいた環境制御技術の確立(炭酸ガス発生装置の効果検証)

## 1 重点対象集団

ハウス日向夏(田野町1戸)、マンゴー(宮崎市1戸)  
キク(国富町2戸)、トルコギキョウ(宮崎市1戸)

## 2 主な取組

～令和5年度

■ 炭酸ガス発生装置の効果や課題を整理し、部会に共有。

	収量	品質	外観	課題等
日向夏(R3、R4)	○	○	—	糖度向上が等階級に影響しない
マンゴー(継続中)	○	◎	△	収穫時期の裂皮発生との因果関係
キク(R3、R4)	—	△	△	取組効果が品質に現れにくい
トルコギキョウ(継続中)	△	△	△	花落ち抑制、輪数増加が示唆

※ ◎：顕著な効果あり、○：効果あり、△：判然としない、—：効果は期待できない

## 現在の状況(令和6年4月から現在まで)

■ マンゴー

他の導入農家の活用状況を調査した上で、技術員会において費用対効果をもとに普及対象や活用方法を設定。

■ トルコギキョウ

隣接ほ場での比較で効果を確認できるよう実証ほを変更。

## 3 成果目標の達成状況

環境測定装置導入戸数 152戸(R2) → 227戸(R5実績)



ICT担当者会での現地検討会



トルコギキョウでの実証ほ設置

# V-② 主な取組と現在の状況

## 普及課題：環境制御技術の推進

### 1 重点対象集団と主な取組

～令和5年度

重点対象集団 JA宮崎中央胡瓜部会(602戸)

- 炭酸ガス発生装置の導入実態及び意向を調査
- 費用対効果の試算ツールを作成
- 農家や指導員向けに研修会を開催

現在の状況(令和6年4月から現在まで)

重点対象集団 きゅうりDプロ対象農家(34戸)  
ピーマンDプロ対象農家(11戸)

- 各農家のデータを分析し、JA指導員と連携して巡回指導
- JA指導員にシステムの使い方や分析手法を講習
- 農家や指導員向けの研修会を継続

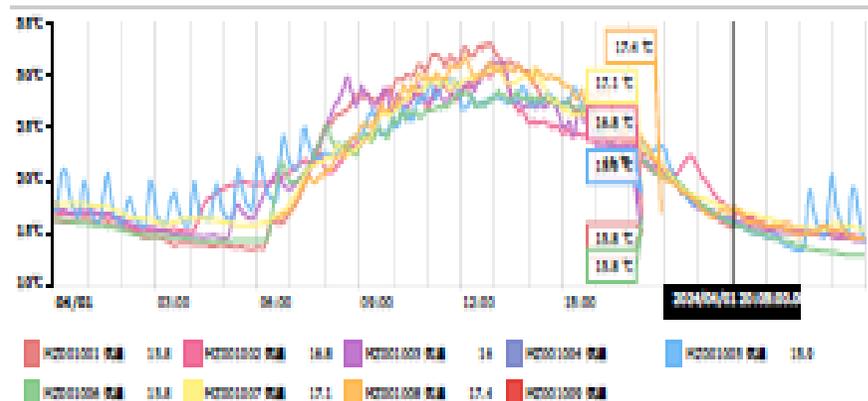
### 2 成果目標の達成状況

推奨環境制御装置導入戸数

261戸(R2) → 303戸(R5実績)



研修会の開催



各農家のデータの比較(温度)

# V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：環境制御技術の高度利用による高収益生産体制の確立

## 1 重点対象集団と主な取組

### (1) AUP会(綾町きゅうり9戸)

～令和5年度

- 現地検討会における環境データの分析結果を提供
- 研修会の開催支援

現在の状況(令和6年4月から現在まで)

- 天敵を活用した防除体系の導入
- 収量予測に向けた生育判断指標の設定

### (2) 市町、JA、NOSAI(連携活動)

現在の状況(令和6年4月から現在まで)

- 低コスト高収益経営モデルの検討
  - ・県内外の先進事例調査
  - ・自動収穫機の実証支援

## 2 成果目標の達成状況

環境測定装置または推奨環境制御装置導入数  
767台(R2) → 986台(R5実績)



現地検討会での情報提供



ピーマン自動収穫機の実証ほ設置

## V-② プロジェクト全体の到達目標の達成状況

普及課題1 : データに基づいた環境制御技術の確立

普及課題2 : 環境制御技術の推進

普及課題3 : 環境制御技術の高度利用による高収益生産体制の確立

### プロジェクト全体の到達目標の達成状況

○ 生産量(基準:R2直近3か年平均、実績:R5直近3か年平均)

施設きゅうり R2(基準) : 25,826t → R5(実績) : 28,094t

施設ピーマン R2(基準) : 4,679t → R5(実績) : 4,386t

## V-③ 今後の課題と対応方向

### (今後の課題)

- (1) 環境制御技術の適切な導入
- (2) さらなる生産性向上に向けた取組への支援
- (3) 低コスト高収益経営に向けた支援

### (対応方向)

- 品目ごとにコスト面を含めた導入効果を精査し、普及対象を明確にした上で、着実な技術導入を図る。
- 生産者や指導員が、自らデータを読み解き、反収向上を図るための技術習得を支援し、物価上昇に耐え得る生産体制を構築する。
- 本地域での適切な経営規模や施設整備等への方向性を定め、より生産性の高い栽培体系へ誘導する。